

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27505

学校名：手稲山口小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	<p>○全国平均の記録と同程度もしくは上回った種目 握力 50m 走 立ち幅跳び</p> <p>○全国平均の記録を下回った種目 上体起こし 長座体前屈 反復横跳び 20m シャトルラン ソフトボール投げ</p>	<p>握力、50m 走、立ち幅跳びは、全国平均を上回ったが、その他は下回った。特に長座体前屈は3年間下降していることを考えると、柔軟性に課題があるといえる。</p>
体力・運動能力 <女子>	<p>○全国平均の記録と同程度もしくは上回った種目 握力 上体起こし 長座体前屈 立ち幅跳び</p> <p>○全国平均の記録を下回った種目 反復横跳び 20m シャトルラン 50m 走 ソフトボール投げ</p>	<p>握力、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳びは、全国平均を上回ったが、その他は下回った。多くの種目で全国平均を上回る結果となったが、反復横跳びは3年間下降し続けているため、敏捷性に課題があるといえる。</p>
運動・スポーツへの意識、運動習慣	<p>『運動やスポーツをすることが好き・やや好き』の回答割合 男子 92.4% (+6.6%) 女子 84.9% (-7.2%) ※()内は昨年度比</p> <p>『進んで学習に参加』の回答割合は、男子 67.3% (59.6%) 女子 42.9% (50.7%) 『目標を意識した学習で「できたり、わかったり」すること』男子 37.7% (32.9%) 女子 22.6% (23.4%) ※()内は全国値</p>	<p>男子の意識は全国・札幌市を上回ったが、女子は進んで学習に参加すること、目標を意識した学習で「できたり、わかったり」すること、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」することが全国に比べ低いので、授業改革、意識改革が必要と考える。</p>

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

・子どもが運動の楽しさに触れられる心と体の準備運動・活動

体育のスタートにダンスを取り入れた準備体操や、主運動での問題解決につながる準備活動を取り入れ、より技能が高まるような学習に取り組む。

・「わかる」と「できる」をつなげ、もっと取り組みたいを生む

子どもの学びを可視化することで、必要な動きを分かるようにし、できる喜びにつなげる。できることを振り返ることで、必要な動きに気付ける(分かる)ようにする。(クロムブックの活用)

・男女共に走力、柔軟性を高める。

準備運動でスキップや、ストレッチなどを導入していく。

・「なわの日」

毎月7と8のつく日1回ずつ縄跳びに取り組む。7のつく日は、個人跳び(30秒での跳んだ回数をカウント・3分間持久跳び)、8のつく日は、ペア学年での通り抜け、またはペア学年での長縄に取り組む。

・「やまっ子アクティブタイム」

毎月3のつく日は、全校でダンスに取り組む日、または、個人スポーツ(キックターゲット、大谷グローブキャッチボール、稲葉(いなバ)トンリレー、ティーバッティング、鉄棒、幅跳び、一輪車、ケンパ、登り棒など)に取り組む日として設定する。持続可能な継続。

・なわとび、ボルダリングコーナーの常設と検定

・食に関する指導・学習の充実

○学校給食を活用した地産地消や家庭と連携した食育・総合(3年生)の推進
○フードリサイクルによる食と環境を結び付けた食育の推進

・心と体と命の学習・保健学習の充実

○年間2回の保健指導や保健学習(3年生以上)の充実により、命を大切に、健康に気を付けようとする気持ちを高める。

・自分の体を知る学習の充実

○年間3回(合計1コマ分)の学習を通して、自分の体の健康づくりを知る。

・夏季休業・冬季休業中の縄跳び活動

○「手稲山登山縄跳びカード」を配付し、自主的、継続的に運動する意識を高める。

家庭・地域との連携・協働

- ・中学校のパートナー校との連携 冬季体育カリキュラムの検討
- ・外部講師の要請 スキーボランティアの募集
- ・学校独自の保護者アンケート、児童アンケートの活用